

一般講演（口頭発表）

一般講演4日（土）午前

	A会場	B会場	C会場
11:00	A101 日本産ヒゲナガゲンバイ属(カメムシ目:ゲンバウムシ科)の分類学的研究 相馬 純 ^{1,2} (九大院・生資環・昆虫1・日本学術振興会特別研究DC12)	B101 飼育下で確認されたアリヅカムシ幼虫の生活史および形態(甲虫目:ハネカクシ科:アリヅカムシ亜科) 井上 翔太 ^{1,2} (九大院・生資環・昆虫1・九大博2)	C101 コマユバチは星型の繭塊をどのように吊り下げるか? ○藤江 隼平 ¹ ・清水 壮 ² ・刀禰 浩一 ³ ・松尾 和典 ⁴ ・前藤 薫 ² (大阪市立自然史博物館 外来研究員 ¹ ・神戸大学 ² ・沖縄市立郷土博物館 ³ ・九州大学 ⁴)
11:15	A102 日本産シモフリヒラタカメシ属(カメムシ目)の分類学的研究 ○嶋本 習介 ¹ ・長島 聖大 ² ・永野 裕 ³ (東京農業大学大学院 ¹ 伊丹市昆虫館 ² ・自然環境研究センター ³)	B102 北琉球・中琉球に生息するウエノツヤドロムシ <i>Urumaelmis uenoi</i> (Nomura, 1961)の分子系統地理 ○吉田 匠・東城 幸治(信州大・理学・生物)	C102 寄生は寄生を招く:ネジレバネ寄生のスズメバチから見つかったタカラダニ ○牧野 俊一 ¹ ・小坂 肇 ¹ ・佐山 勝彦 ² ・岡部 貴美子 ¹ (森林総合研究所 ¹ ・森林総合研究所九州支所 ²)
11:30	A103 日本から新たに見つかった3種の <i>Saldula</i> 属(カメムシ目:ミズギワカメムシ科) 瀬戸山 知佳(東京農業大学 昆虫学研究室)	B103 ゲノムワイドな系統解析から明らかになったコオイムシの進化史 ○鈴木 智也 ^{1,2} ・谷野 宏樹 ^{3,2} ・大庭 伸也 ⁴ ・川野 敬介 ⁵ ・関根 一希 ^{6,7} ・Bae Yeon Jae ^{7,8} ・東城 幸治 ^{2,9} (京都大・地球環境 ¹ ・信州大・理 ² ・基生研 ³ ・長崎大・教育 ⁴ ・豊田ホルタルの里ミュージアム ⁵ ・立正大・地球環境科学 ⁶ ・高麗大・生命科学 ⁷ ・韓国国立生物資源研 ⁸ ・信州大・山岳研 ⁹)	C103 Multiparasitismは寄生蜂による“非寄生”での繁殖を可能にする ○藏満 司夢 ^{1,2} ・戒能 洋一 ³ ・今野 浩太郎 ² (日本学術振興会特別研究員PD1・農研機構 ² ・筑波大 ³)
11:45	A104 日本産アオズキンヨコバイ属 <i>Batracomorphus</i> の分類学的再検討 ○岡崎諒一郎 ¹ ・吉松 晶子 ² ・紙谷 聡志 ³ (九大院・昆虫1・福岡市 ² ・九大院・昆虫 ³)	B104 分布を広げた寄主昆虫を利用するのは誰?: 在来の寄主昆虫との卵寄生蜂相の比較 ○中林 ゆい ¹ ・大島 一正 ^{1,2} (京都府立大院 ¹ ・京都府立大・新自然史科学創生センター ²)	C104 ショウリウバツタは飛翔中にどのような方法でキチキチ音を発するか ○久我 立・粕谷 英一(九州大/生態科学研)

一般講演4日(土)午後

	A会場	B会場	C会場
15:15	A111 <i>Baeosega</i> 属とその近縁属の分類学的研究(ハチ目セイボウ科ナナフシヤドリバチ亜科) 三田 敏治(九大院・農・昆虫)	B111 MIG-seq法により明らかとなった、海岸の地中に生息する甲虫イソチビゴミムシの地理的遺伝構造 ○中濱 直之1,2・岡野 良祐3・西本 雄一郎4・松尾 歩5・伊藤 昇6・陶山 佳久5(兵庫県大1・兵庫県博2・いであ(株)3・松阪市4・東北大5・大阪市博6)	C111 カメムシ科昆虫における共生細菌の垂直伝達のための新奇な行動 ○森山 実・深津 武馬(産総研/生物プロセス)
15:30	A112 日本産シリボソクロバチ科分類の現状と国内未記録の <i>Phoxoserphus</i> 属(ハチ目:クロバチ上科) 阿部 純大(九大・農)	B112 広義マグソコガネ亜科の系統と好白蟻性の起源 ○柿添 翔太郎1,2・丸山 宗利2(九大・熱研セ1・九大博2)	C112 ミツバチ2種の自己グルーミング行動に関わる胸部体毛の形態比較 坂本 佳子(国立環境研究所)
15:45	A113 ヒメバチ科ヒメバチ亜科における後体節腹板の形態形質:系統と族分類 菊地 波輝(東京都立大学・動物系統分類学研究室)	B113 同所的に生息するヒメボタル二型の季節消長と遺伝的多様性 遠藤 研太郎・○平井 規央・上田 昇平・松田 潔(大阪府大・生命)	C113 ある種のチョウの幼虫に見られる頭部突起の適応的意義 2 ~フタオチョウ幼虫の持つ硬い突起の役目に関する「天敵防衛」仮説の検証~ ○香取 郁夫・中根 哲哉・芳谷 昂紀・大橋 優樹・坂本 貴海(近畿大・昆虫研)
16:00	A114 不快害虫シズオカコヒゲクロバネキノコバエ(双翅目)の分類と生態 ○末吉 昌宏1・田上 陽介2・Menzel Frank3(森林総合研究所1・静岡大学2・SDEI3)	B114 北海道西部(渡島半島)に分布するトワダナガレトビケラの正体 ○倉西 良一1,2・茶木 慧太1・水流 尚樹1・村上 正志1(千葉大学1・神奈川工科大2)	C114 ハマヒョウタンゴミムシダマシは逆立ちして海を渡るのか? ○松林 圭1・上野 弘人2(九州大学/基幹教育院1・九州大学/荒谷研究室2)
16:15	A115 「昆虫世界」で記載された新タクサ吉富 博之(愛媛大学農学部昆虫学研究室)	B115 クワガタムシ近縁2種における遺伝子浸透と形態的変異 ○Zhang Shengnan・久保田 耕平(The University of Tokyo)	C115 国立環境研究所における外来生物・農薬・感染症リスク研究最前線 五箇 公一(国立環境研究所)

一般講演 5日(日)午前

	A会場	B会場	C会場
9:30	A201 日本産イカリモンノメイガと近縁な未記載種(チョウ目, ツトガ科) ○Rosfiansyah Rosfiansyah1・Yagi Sadahisa1 Tomura Shunsuke1・Yoshiyasu Yutaka2・Hirowatari Toshiya1 (Kyushu Univ.1・Osaka Prefecture Univ.2)	B201 オニクワガタ属とルリクワガタ属における共生酵母の水平伝播 ○上木 岳1・張 勝男2・朱 雪姣2,3・温 秀軍3・東城 幸治1・久保田 耕平2(信州大学理学部1・東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室2・華南農業大学森林保護3)	
9:45	A202 日本産 <i>Niditinea</i> 属(チョウ目; ヒロズコガ科)の分類学的研究 ○屋宜 禎央・広渡 俊哉(九大院・農・昆虫)	B202 分類基準間での矛盾からひも解く種分化の時系列 ○田中 康湧1・大島 一正1,2(京都府大・院1・京都府大・新自然史科学創生センター2)	C202 見過ごされてきた共生関係の再発見 鱗翅目幼虫とともに住むハネカクシ ○野崎 翼1・丸山 宗利2(九大院・生資環・昆虫1・九大博2)
10:00	A203 日本産コブカザリバガ科(チョウ目)の分類と生態 ○後藤 聖士郎1・田川 裕貴2・屋宜 禎央3・広渡 俊哉3(九大院/生資環/昆虫1・大分上野丘高2・九大院/農/昆虫3)	B203 関東地方におけるツヤヒラタゴミムシ属の系統進化と遺伝的分化 ○清水 隆史・久保田 耕平(東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林動物学研究室)	C203 ヨツボシモンシデムシの闘争の結果が繁殖に与える影響の雌雄差 鈴木 誠治(北大院・農)
10:15	A204 ハイノキ属を食べる <i>Coptotriche</i> 属2種の分類学的研究(鱗翅目, ムモンハモグリガ科) ○Kim Hyeongkyu1・屋宜 禎央2・小林 茂樹3・広渡 俊哉2(九大院・生資環・昆虫1・九大院・農・昆虫2・大阪府大院・生命・昆虫3)	B204 ヒラタムシ類(甲虫目:ヒラタムシ上科)における交尾行動パターンの進化過程 吉田 貴大(東京都立大学 理学部 動物系統分類学研究室)	C204 講演取消
10:30	A205 中国で発見された <i>Ogygioses</i> 属(ムカシコウモリガ科)の未記載種とその系統位置 廖 承清2・○広渡 俊哉1・黄 国華2(九大院/昆虫1・湖南農大2)	B205 ここまでわかった! ギンケハラボソコマユバチの産雌単為生殖 ○前藤 薫1・和智 仲是2・藤江 隼平3(神戸大1・琉球大2・大阪市博3)	C205 都市温暖化と人工照明がナミクバエの休眠誘導に及ぼす影響 ○向井 歩1,2・山口 幸紀2・後藤 慎介2(摂南大・理工1・大阪市大・院理2)

一般講演 5日(日)午後

	A会場	B会場	C会場
15:30	A211 日本産ヒゲナガキバガ科(鱗翅目・キバガ上科)の分類学的再検討及び幼虫の飼育による形態観察 ○奥 尉平1・坂巻 祥孝2・広渡 俊哉1(九大院・生資環・昆虫1・鹿大・農2)	B211 Tripartite symbiosis: endosymbiotic bacteria in aphid galling ○Tong Xin1,2・Kobayashi Yuuki2・Akimoto Shin-ichi1・Shigenobu Shuji2(北海道大学/昆虫体系学研究室1・基礎生物学研究所/進化ゲノミクス研究室2)	C211 タガメ(カメムシ目;コオイムシ科)の産卵場所選択 ○大庭 伸也1・渡辺 黎也2(長崎大/人文社会科学域1・いであ株式会社2)
15:45	A212 琉球列島の <i>Promalactis</i> 属(鱗翅目:マルハキバガ科)の種多様性 ○外村 俊輔1・広渡 俊哉2(九大院・生資環・昆虫1・九大院・農・昆虫2)	B212 フジホソガのサキシマフヨウ上集団とイルカンダ上集団間における交配親和性 ○勝部 圭1・田中 康湧2・大島 一正2,3(京都府大1・京都府大・院2・京都府大・新自然史科学創生センター3)	C212 ウラナミジャノメ属におけるイネ科植物への適応 鈴木 紀之(高知大)
16:00	A213 アサギマダラ(鱗翅目タテハチョウ科)の原名亜種と日本亜種の外部形質、雄交尾器およびDNAバーコーディングに基づく比較 長田 庸平(大阪市立自然史博物館)	B213 顕微鏡撮影とX線CTを使った、岩手県久慈市の琥珀中の昆虫類の同定 ○城田 安幸1・西川 幸宏2(医果同源りんご機能研究所1・京都工芸繊維大学2)	C213 チョウの性認識と種認識を再検討する ○竹内 剛1・村松 大輔2,3(大阪府大・生命環境1・奈良教育大・自然セ2・京大・WRC3)
16:15		B214 <i>Asiopodabrus</i> 属(甲虫目ジョウカイボン科)の雄交尾器内袋の形態 ○中村 涼・久保田 耕平(東京大)	

一般講演 6日(月)午前

	A会場	B会場	C会場
9:30	A301 琉球列島のヒメマルガムシ属(鞘翅目・ガムシ科) ○藁島 悠介1・上手 雄貴2・Fikáček Martin3,4,5(北九州市立自然史・歴史博物館1・名古屋市衛生研究所2・National Sun Yat-sen Univ.3・National Museum, Prague4・Charles Univ.5)	B301 侵入害虫のヨツモンカメノコハムシの生活史調節機構 ○新谷 喜紀・高橋 佑弥・中川 健史・峰嶋 佑樹(南九州大・昆虫生態)	
9:45	A302 ホラアナカマヒゲアリツカムシ種群(コウチュウ目・ハネカクシ科)は段階群か? 野村 周平(国立科学博物館/動物研究部)	B302 島根県意宇川におけるセマルヒメドロムシ <i>Orientalmis parvula</i> (コウチュウ目:ヒメドロムシ科)の生活史 ○森本 涼介・宮永 龍一(島根大学大学院)	
10:00	A303 ケブカヒメウミハネカクシ属(甲虫目ハネカクシ科)の分類学的研究と生態について ○田作 勇人1・丸山 宗利2(東海大生物1・九大博2)	B303 カオマダラクサカゲロウのマユから羽化したヒメバチ類 松本 吏樹郎(大阪市立自然史博物館)	
10:15	A304 日本から初記録となるヒゲフトハネカクシ亜科(甲虫目:ハネカクシ科)の数属について ○橋爪 拓斗1・野崎 翼2・井上 修吾1・田作 勇人3・丸山 宗利4(九大・農1・九大院・生資環・昆虫2・東海大・生物3・九大博4)	B304 外来種ムシヤクロツバメシジミの名古屋市における季節消長と発育における温度・日長反応 ○玉井 秀実1・上田 昇平1・矢後 勝也2・平井 規央1(大阪府大・生命1・東大・総研博2)	C304 高まるヒアリ定着の危機-ヒアリ侵入阻止と定着前防除の新規技術研究 ○橋本 佳明1・坂本 洋典2・三橋 弘宗1・五箇 公一2・浅井 ひろみ3・八十島 将充4・山崎 昌男5・林 暉閔6(兵庫県立大学/兵庫県立人と自然の博物館1・国立環境研究所生物・生態系環境研究センター2・株式会社PRD3・もりや産業4・オイケム合同会社5・蒙斯特農研6)
10:30	A305 日本産クサビラハネカクシ属 <i>Plesiochara</i> (甲虫目:ハネカクシ科)の分類学的再検討 ○井上 修吾1・丸山 宗利2(九州大/農1・九大博2)	B305 ナガカメネジレバネの宿主体内での競争と成長戦略 ○中瀬 悠太1・福樹 友一朗2・田路 翼1・石本 なつみ1・市野 隆雄1(信州大1・上越教育大2)	C305 九州北部における外来アリの分布拡大 細石 真吾(九大/熱研センター)
11:00	A306 礫浜の潮間帯性ハネカクシに関する知見(甲虫目:ハネカクシ科) ○丸山 宗利1・小野 広樹2・田作 勇人3(九大博1・うみねこ博物館2・東海大生物3)	B306 ナナフシヤドリバチの寄主卵との形態的関連および産雌性単為生殖(ハチ目:セイボウ科:ナナフシヤドリバチ亜科) ○久末 遊1・三田 敏治2(九大院・生資環・昆虫1・九大院・農・昆虫2)	C306 マイクロサテライトマーカーを用いた絶滅危惧種シルビアシジミの集団遺伝構造解析 佐藤 大輔1・○上田 昇平1・中濱 直之2・伊津野 彩子3・井鷲 裕司4・矢後 勝也5・平井 規央1(大阪府大院1・兵庫県大2・森林総研3・京大院4・東大総研博5)
11:15	A307 日本産 <i>Parahabroloma</i> 亜属の分類学的再検討(コウチュウ目タマムシ科)—1未記載種と種群について— 瑤寺 裕(北海道大学大学院/農学院/昆虫体系学研究室)	B307 日本産オオクワガタ由来不凍タンパク質の発見 ~昆虫不凍タンパク質の起源を探る~ ○山内 彩加林1,2・三浦 愛2・津田 栄1,2(北海道大学大学院生命科学院1・産業技術総合研究所生物プロセス部門2)	C307 東電福島第一原発事故による被災地域における営農再開後の水田生物の多様性評価 ○三田村 敏正1・遠藤 わか葉2・松木 伸浩3・吉岡 明良4・田淵 研5(福島県農業総合センター浜地域研究所1・福島県東北農林事務所2・福島県農業総合センター3・国立環境研究所福島地域協働研究拠点4・東北農業研究センター5)
11:30	A308 日本産デビゾウムシ亜科(コウチュウ目:ゾウムシ上科:ミツギリゾウムシ亜科)の分類学的再検討 安川 怜志(九大院・生資環・昆虫)	B308 昆虫体表脂質のトポロジーに関する放射光を利用した研究:体表脂質の著しい不均一分布 ○金子 文俊1・片桐 千仞2・長嶋 剣3・佐崎 元3・池本 夕佳4(大阪大1・数理設計研2・北海道大3・SPring-84)	C308 佐賀平野におけるイトトンボ類と水生植物の減少要因 ○徳田 誠・尋木 優平・大場 裕太郎・大石 寛貴・岡本 聖羅(佐賀大・農)
11:45	A309 日本及び台湾産のモンクチカクシゾウムシ属の分類学的研究とその発音行動に関して(コウチュウ目:ゾウムシ科) 辻 尚道(九大・生資環・昆虫)	B309 トノサマバッタの産卵におけるバッタのフン抽出液の抑制効果 菅原 亮平(弘前大)	

一般講演 6日(月)午後

	A会場	B会場	C会場
13:00	A311 日本産ワタミヒゲナガゾウムシ属の識別・分布・寄主利用について ○今田 舜介 ^{1,2} ・外村 俊輔 ² (九大博 ¹ ・九大院・生資環・昆虫 ²)	B311 障壁植物によるキビ圃場の障壁栽培が節足動物相におよぼす影響 ○中内 拓海・村田 浩平・永野 智大・松浦 朝奈(東海大学大学院)	
13:15	A312 日本産マルガタゴミムシ属基亜属(鞘翅目オサムシ科)の分類学的研究 佐藤 諒一(北海道大学農学院/昆虫体系)	B312 特定外来生物ヒアリ <i>Solenopsis invicta</i> に対する化学的防除用薬剤の効力比較 ○坂本 洋典・五箇 公一(国立研究開発法人 国立環境研究所)	
13:30	A313 走査型電子顕微鏡を用いた双翅目ガガンボダマシ科雌成虫における尾角の微細構造の観察 中村 剛之(弘前大/白神自然環境研究センター)	B313 野外におけるミズギワカメムシの生態 ○永野 智大・村田 浩平・中内 拓海・松浦 朝奈(東海大学 大学院)	
13:45	A314 ヒロムネカワゲラ科2種の1齢幼虫について(昆虫綱・カワゲラ目) ○武藤 将道・塘 忠顕(福島大学共生システム理工学類)		
14:00	A315 Morphology of the pupal dorsal thorax of gall midges (Diptera: Cecidomyiidae) ○Elsayed Ayman ^{1,2,3} ・Tokuda Makoto ^{2,3} (The University of Tokyo ¹ ・Kagoshima University ² ・Saga University ³)		